

目次

I 序章	頁
調査の経過と概要	1
II 遺構	
1 遺跡の概観	3
2 遺構	4
III 遺物	
1 土器類	8
2 屋瓦	28
3 銭貨	29
4 採取遺物・遺構の保存	30
IV まとめ	
1 東四坊々間路	32
2 九坪周囲の条坊復原	33
3 占地と時期区分	35
4 左京四条四坊の居住者と京内の宅地構成	37
5 結語	40

写真図版

巻頭写真	掘立柱建物SB2393柱穴出土	(2) SB2392・2393
	羊形硯	PL. 6(1) SD2401・SA2402
PL. 1(1)	天平時代の食器構成	(2) SB2390
	(2) SK2408銅銭出土状態	PL. 7(1) 調査区西半部全景
PL. 2	調査地周辺航空写真(1/7000)	(2) 調査区西半部の遺構
PL. 3	調査地周辺航空写真(1/3000)	PL. 8(1) SB2395・SB2396・SA2405
PL. 4(1)	調査区東半部全景	(2) SB2395・SA2405
	(2) 調査区東半部の遺構	PL. 9(1) 東四坊々間路
PL. 5(1)	SB2390	(2) 東四坊々間路と西半部の遺構

表

	頁	
tab. 1	墨書土器一覽	20
tab. 2	出土土器の構成一覽	27
tab. 3	SK2412出土土器個体数表	27
tab. 4	平城京の宅地割遺構	39

挿 図

	頁		
fig. 1		fig. 18	墨書土器実測図……………21
fig. 2	調査地周辺図……………1	fig. 19	三彩小壺実測図……………22
fig. 3	遺跡を見学する生徒たち……………2	fig. 20	ミニチュア土器実測図……………22
fig. 4	発掘調査風景……………2	fig. 21	土馬実測図……………22
fig. 5	調査地周辺航空写真……………3	fig. 22	各遺構出土土器……………23
fig. 6	遺構配置図……………4・5	fig. 23	羊形硯実測図……………24・25
fig. 7	SB2390柱根残存状態……………7	fig. 24	羊形参考資料……………25
fig. 8	羊形硯出土状態……………7	fig. 25	出土軒瓦拓本……………28
fig. 9	器種一覧……………8	fig. 26	SB2390出土銭……………29
fig. 10	SK2407・2408、SD2401、 SK2406出土土器実測図……………11	fig. 27	銅銭出土状態実測図……………29
fig. 11	SK2412出土土器実測図(1)……………12	fig. 28	柱穴根巻石の保存処置……………30
fig. 12	SK2412出土土器実測図(2)……………13	fig. 29	和同開珎の保存処理……………31
fig. 13	SK2412出土食器セット……………15	fig. 30	調査地周辺航空写真……………33
fig. 14	SK2412出土土器実測図(3)……………16	fig. 31	調査地周辺の地形と条坊……………34
fig. 15	SK2410出土土器実測図……………18	fig. 32	九坪の占地概念図……………35
fig. 16	SK2409・SK2411・SK2413・ SK2414・包含層出土土器実測図……………19	fig. 33	遺構の時期変遷図……………35
fig. 17	墨書土器……………20	fig. 34	太安萬侶墓誌……………37
		fig. 35	平城京貫籍者の位階の分布……………39
			巻末折込 平城京左京四條四坊九坪実測図

例 言

1. 本書は奈良市三条宮前町に位置する平城京左京四條四坊九坪の発掘調査報告である。
2. この調査は、白藤学園の校舎増改築に伴う事前調査として、奈良県教育委員会の委託を受けた奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が昭和57年6月28日～7月10日にかけて実施したものである。
3. 調査には工楽善通・田中哲雄・山本忠尚・西弘海・今泉隆雄・上野邦一・千田剛道・巽淳一郎・山岸常人・松村恵司・本中真・佐藤信・松井章・深沢芳樹が参加した。調査にあたっては、学校法人白藤学園・奈良県教育委員会事務局の全面的な協力を得た。
4. 本書の作成は、当調査部長岡田英男の指導のもとに調査員全員があたり、全体の討議を経て以下のように分担執筆した。
I：工楽善通、II・IV-3：巽淳一郎、III-1：西弘海、III-2：山本忠尚、III-3・IV-2・5：松村恵司、III-4：沢田正昭、IV-1：田中哲雄、IV-4：佐藤信
5. 遺構・遺物・図版の写真は佃幹雄が担当し、八幡扶桑、池田千賀枝の協力を得た。また奈良県立橿原考古学研究所より、太安萬侶墓誌写真の提供をいただいた。
6. 本調査は、平城宮跡発掘調査部の第141-9次調査に該当する。各遺構には平城京左京における調査規準に従い一連の通し番号を付した。
7. 本書の編集は松村恵司が担当した。